

第 106 回 地区内中小企業 景 気 動 向 調 査 結 果

(平成 27 年 4 月～ 6 月実績)

(平成 27 年 7 月～ 9 月予想)

***** 目 次 *****

| | | |
|------------|-------|----|
| 地区内データベース | | 1 |
| 全国 ・ 全道の概況 | | 4 |
| 調査の概要 | | 5 |
| 全業種総合 | | 6 |
| 製造業 | | 9 |
| 建設業 | | 11 |
| 卸売業 | | 13 |
| 小売業 | | 15 |
| サービス業 | | 17 |
| 特別調査 | | 19 |

地区内データベース

1. 人口・世帯数動向 (平成27年6月末)

| 町村名 | 人 口 | | | 世 帯 数 | | |
|-----------|-----------|--------|---------|-----------|--------|---------|
| | 人 数 | 前年同月比 | 3 月 末 比 | 世 帯 数 | 前年同月比 | 3 月 末 比 |
| 平 取 町 | 5,431 | -103 | 33 | 2,639 | -33 | 20 |
| 日 高 町 | 12,658 | -250 | 33 | 6,374 | -51 | 58 |
| 新 冠 町 | 5,751 | 16 | 53 | 2,727 | 30 | 42 |
| 新ひだか町 | 23,915 | -468 | 47 | 11,981 | -136 | 78 |
| 浦 河 町 | 13,111 | -243 | -49 | 6,854 | -49 | 4 |
| 様 似 町 | 4,680 | -53 | 22 | 2,268 | 17 | 22 |
| え り も 町 | 5,089 | -73 | 41 | 2,168 | 9 | 28 |
| 広 尾 町 | 7,330 | -187 | 24 | 3,481 | -9 | 51 |
| 大 樹 町 | 5,792 | -93 | 42 | 2,664 | 0 | 35 |
| 日高・十勝地区合計 | 83,757 | -1,454 | 246 | 41,156 | -222 | 338 |
| 札 幌 市 | 1,940,041 | 6,223 | 5,392 | 1,024,582 | 11,271 | 6,498 |
| 江 別 市 | 119,726 | -653 | 86 | 55,451 | 282 | 288 |
| 石 狩 市 | 59,158 | -398 | -116 | 27,077 | 105 | 32 |
| 北 広 島 市 | 59,413 | -350 | -112 | 26,849 | 149 | 73 |
| 恵 庭 市 | 68,988 | 208 | 90 | 31,575 | 360 | 105 |
| 千 歳 市 | 95,471 | 144 | 651 | 46,910 | 418 | 572 |
| 石狩地区合計 | 2,342,797 | 5,174 | 5,991 | 1,212,444 | 12,585 | 7,568 |
| 苫 小 牧 市 | 173,781 | -325 | 141 | 86,831 | 534 | 260 |
| 厚 真 町 | 4,708 | -6 | 0 | 2,131 | 37 | 28 |
| む か わ 町 | 8,867 | -235 | -29 | 4,441 | -65 | 30 |
| 胆振地区合計 | 187,356 | -566 | 112 | 93,403 | 506 | 318 |
| 営業区域合計 | 2,613,910 | 3,154 | 6,349 | 1,347,003 | 12,869 | 8,224 |

(資料出所：各市町村)

* 日高町の人口に外国人登録者数は含まれていません。

2. 企業倒産状況 (平成27年4~6月中)

千万円

| 単位：件・千万円 | 件 数 | 負 債 金 額 | 件数前年同期比 | 金額前年同期比 |
|--------------|-------|---------|---------|---------|
| 苫 小 牧 管 内 | 2 | 15 | -2 | -274 |
| (内・新冠町~えりも町) | 0 | 0 | -2 | -14 |
| 業種および件数 | | | | |
| 地区および件数 | | | | |
| 北 海 道 | 61 | 1,362 | -16 | -403 |
| 全 国 | 2,296 | 44,740 | -317 | -5,837 |

(資料出所：東京商工リサーチ)

3. 労働需給状況

平成 27 年 4 月

| | 浦 河 (人・倍) | 全 道 (人・倍) | 前年同月比(%・ポイント) | | 前月比(%・ポイント) | |
|----------|--------------|--------------|---------------|-------|-------------|-------|
| | | | 浦 河 | 全 道 | 浦 河 | 全 道 |
| 月間有効求人数 | 948 | 86,967 | 2.27 | 7.02 | -4.82 | -0.82 |
| 月間有効求職者数 | 958 | 102,639 | -8.33 | -4.43 | 0.52 | 5.88 |
| 月間有効求人倍率 | 0.99 | 0.85 | 0.10 | 0.09 | -0.06 | -0.05 |

平成 27 年 5 月

| | | | | | | |
|----------|------|--------|--------|-------|--------|-------|
| 月間有効求人数 | 867 | 85,434 | 0.81 | 6.82 | -8.54 | -1.76 |
| 月間有効求職者数 | 839 | 97,503 | -12.70 | -7.00 | -12.42 | -5.00 |
| 月間有効求人倍率 | 1.03 | 0.88 | 0.14 | 0.12 | 0.04 | 0.03 |

平成 27 年 6 月

| | | | | | | |
|----------|------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 月間有効求人数 | 888 | 86,037 | 1.02 | 8.44 | 2.42 | 0.71 |
| 月間有効求職者数 | 786 | 94,296 | -9.13 | -6.08 | -6.32 | -3.29 |
| 月間有効求人倍率 | 1.13 | 0.91 | 0.11 | 0.12 | 0.10 | 0.03 |

(資料出所：浦河公共職業安定所)

4. 浦河町・新ひだか町静内 金融機関預金・貸出金残高 (平成 27 年 6 月末現在)

単位：百万円・%

| 預 金 | | | 貸 出 金 | | |
|---------|-------|-------|--------|-------|-------|
| 残 高 | 前年同月比 | 前 月 比 | 貸 出 金 | 前年同月比 | 前 月 比 |
| 125,743 | 0.90 | 0.12 | 47,693 | -1.24 | -0.73 |

(資料出所：浦河・静内金融協会)

5. 浦河町・新ひだか町静内 手形交換高

平成 27 年 4 月

| | 当 月 | 前年同月比 (%) | 前月比 (%) |
|---------------|-----|-----------|---------|
| 交 換 枚 数 (枚) | 334 | -7.48 | -22.69 |
| 交 換 金 額 (百万円) | 378 | 8.93 | -19.40 |
| 不渡り手形枚数 (枚) | 0 | -100.00 | — |
| 不渡り手形金額 (百万円) | 0 | -100.00 | — |

平成 27 年 5 月

| | | | |
|---------------|-----|---------|--------|
| 交 換 枚 数 (枚) | 213 | -1.84 | -36.23 |
| 交 換 金 額 (百万円) | 273 | 16.17 | -27.78 |
| 不渡り手形枚数 (枚) | 0 | -100.00 | — |
| 不渡り手形金額 (百万円) | 0 | -100.00 | — |

平成 27 年 6 月

| | | | |
|---------------|-----|---------|-------|
| 交 換 枚 数 (枚) | 374 | -10.10 | 75.59 |
| 交 換 金 額 (百万円) | 389 | -3.71 | 42.49 |
| 不渡り手形枚数 (枚) | 0 | -100.00 | — |
| 不渡り手形金額 (百万円) | 0 | -100.00 | — |

(資料出所：浦河・静内金融協会)

6. 建築確認申請

単位：件数

| | | 件 数 | 前年同期比 | 前四半期比 |
|-------------|-------------------|-----|-------|-------|
| 当 金 庫 管 内 | 27/ 4～27/6 月中の申請 | 46 | -10 | 23 |
| (新ひだか町～広尾町) | 27/ 4～27/ 6 月迄の累計 | 46 | -10 | |

(資料出所：各町村)

7. 気象情報

平成 27 年 4 月中

| | 本 年 | | | 平年偏差・平年比 | | |
|-----|--------|----------|---------|----------|---------|----------|
| | 気温 (℃) | 降水量 (mm) | 日 照 時 間 | 気温 (℃) | 降水量 (%) | 日照時間 (%) |
| 浦 河 | 6.1 | 126.0 | 178.6 | 1.1 | 166.67 | 96.18 |
| 広 尾 | 6.4 | 172.0 | 192.4 | 1.4 | 152.62 | 104.79 |

平成 27 年 5 月中

| | | | | | | |
|-----|------|------|-------|-----|-------|--------|
| 浦 河 | 11.0 | 90.5 | 237.2 | 1.7 | 74.67 | 125.30 |
| 広 尾 | 12.1 | 62.5 | 250.6 | 2.8 | 38.77 | 142.71 |

平成 27 年 6 月中

| | | | | | | |
|-----|------|-------|-------|-----|-------|--------|
| 浦 河 | 13.8 | 57.0 | 165.2 | 0.7 | 64.55 | 113.46 |
| 広 尾 | 13.3 | 114.0 | 112.8 | 1.1 | 80.74 | 89.03 |

(資料出所：国土交通省 気象庁)

全国・全道の概況

信金中央金庫がまとめた全国の信用金庫の窓口からみた中小企業の景況によると、平成27年4～6月期(今期)の業況判断D. I. は $\Delta 8.9$ と、前期比0.9ポイントの改善となった。ただ、前回調査時点における今期見通し($\Delta 8.2$ 、前期比1.6ポイントの改善見通し)に比べれば、小幅の改善にとどまった。収益面では、前年同期比売上額判断D. I. が $\Delta 3.1$ と同3.6ポイント改善、収益の判断D. I. は $\Delta 7.1$ と同3.4ポイント改善した。販売価格判断D. I. は3.9と、1.5ポイント上昇した。人手過不足判断D. I. は $\Delta 14.3$ と不足感が前期に引き続き緩和した。業種別の業況判断D. I. は製造業と建設業を除く4業種で改善した。地域別には11地域中、北海道、東北、首都圏、北陸、近畿、四国の6地域で改善した。平成27年7～9月期(来期)の予想業況判断D. I. は $\Delta 7.6$ 、今期実績比1.3ポイントの小幅改善見通しである。業種別には、サービス業と不動産業を除く4業種で、地域別には11地域中、北海道、東北、関東、首都圏、東海、中国の6地域で改善する見通しにある。

日本銀行札幌支店が7月1日発表した金融経済概況によると、北海道地域の景気は、緩やかに回復している。すなわち、最終需要面の動きをみると、公共投資は、高水準で推移しているものの、減少している。輸出は、振れを伴いつつも増加している。設備投資は、景気が緩やかに回復する中、売上や収益が改善するもとの、一段と増加している。個人消費は、雇用・所得環境が着実に改善する中、消費者マインドが徐々に明るくなっていることから、回復している。観光は、好調さを増している。住宅投資は、下げ止まっている。生産は、堅調な海外需要を背景に、増加している。雇用・所得情勢をみると、労働需給は着実に改善している。雇用者所得は回復している。

需要項目別動向

- 個人消費・・・雇用・所得環境が着実に改善する中、消費者マインドが徐々に明るくなっていることから、回復している。なお、地域差は引き続きみられている。大型小売店では、回復している。品目別にみると、衣料品は、夏物の販売が札幌圏を中心に好調となるなど、持ち直している。食料品は、生鮮食品や惣菜等を中心に堅調に推移している。高額商品の販売は、腕時計を中心に好調に推移している。この間、外国人観光客の旺盛な消費は幅広い品目に及んでいる。コンビニエンスストアでは、新商品や道内限定商品の販売が好調となっているほか、新規出店効果などから、札幌圏を中心に堅調に推移している。乗用車販売では、軽自動車は軽自動車税の引き上げによる駆け込み需要の反動等から減少しているものの、普通車・小型車は新型車を中心に増加している。家電販売では、白物家電の買い替え需要が一服しているものの、理美容品等の趣味に関連する商品や携帯電話の販売が好調であるほか、市街地店舗等で外国人観光客向けの高価格帯の小型家電等が好調に推移しており、緩やかに回復している。観光については、好調さを増している。国内観光客については、個人客が好調であることから、高水準であった前年並みで推移している。また、外国人観光客は、アジアを中心に一段と増加している。支出額については、一段と増加傾向にある。内外観光客ともに宿泊単価は、札幌市内を中心にリーマンショック前の水準まで回復しつつあるほか、観光施設の入込み客数も堅調に推移している。土産品についても外国人観光客を中心に販売が堅調に推移している。道民の旅行動向をみると、国内旅行は、道内旅行に弱めの動きが見られるものの、円安により料金が高止まっているほか、地政学上のリスクが意識されていることから、減少している。
- 公共投資・・・高水準で推移しているものの、減少している。公共工事の発注の動きを示す公共工事請負金額(年度累計)は、高水準で推移しているものの、前年を下回っている。
- 住宅投資・・・下げ止まっている。新設住宅着工戸数をみると、持家は消費税率引き上げによる駆け込み需要の反動の影響が和らいでいる。貸家は道内外投資家の需要が旺盛となっている。分譲は建設コストの上昇が一服していることなどから、新規投資を控える動きが和らいでいる。
- 雇用・所得・・・労働需給は着実に改善している。雇用者所得は回復している。有効求人倍率(常用)は、幅広い業種で人手不足が続いていることから、前年を上回って推移している。この間、新規求人数に占める正社員比率も上昇している。雇用者所得は、常用労働者数が増加しているほか、賃上げの動きに広がりが見られており、回復している。